

【鹿児島県南九州市】

校務 DX 計画

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組項目を下記のとおり定めます。

取組項目	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービス等を用い、P C・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計している割合	40%	80%	100%	100%	100%
学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している割合	10%	80%	100%	100%	100%
保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計している割合	50%	80%	100%	100%	100%
児童生徒一人一人に配備されたタブレットなどの端末を、毎週家庭で利用できるように持ち帰らせている割合	50%	80%	100%	100%	100%
児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計している割合	70%	80%	100%	100%	100%
クラウドサービス等を活用し、授業中の小テスト等に CBT を取り入れている割合	70%	85%	100%	100%	100%
職員会議等の資料をクラウド等で共有しペーパーレス化している割合	30%	80%	100%	100%	100%
授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いる割合	50%	80%	100%	100%	100%
教職員への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計している割合	65%	85%	100%	100%	100%
校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃に取り組んだ学校の割合	—	100%	100%	100%	100%
FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	15%	100%	100%	100%	100%

課題と解決策

1 FAX・押印等の制度・慣行の見直し

本市では、全ての学校で FAX が活用されており、外部とのやりとりにおいても、相手方の要請により FAX を使用するケースが多い。このため、デジタル化を推進するには、相手方の理解を得ることが重要である。FAX に代わる手段として、鹿児島県県域教育用アカウントにより教職員一人ひとりにメールアドレスが付与されているため、これを積極的に活用していく。また、押印・署名については、紙ベースの処理が慣行となっており、デジタル化の障壁となっている。保護者向けの申請書等については、可能な限り汎用クラウドツールを活用し、教育委員会が押印を求めている書類については必要性を検討の上、条例・規則等の改正を進めていく。

2 汎用クラウドツールの一層の活用

本市では、児童生徒の欠席連絡や保護者へのアンケート、職員会議等での各種資料の共有において汎用クラウドツールの活用を進めているが、学校間や教職員間で活用の差があり、紙ベースでのやり取りも依然として残っている。この背景には、教職員の ICT リテラシーの不足や導入への抵抗感があると考えられる。この課題を解決するために、教育委員会が有用な活用事例を紹介し、具体的な運用方法を示すことで、教職員の理解を深めることが重要である。併せて、ICT 支援員による職員研修を実施し、基本的な操作方法や実践的な活用方法を学ぶ機会を提供することで、業務の効率化やペーパーレス化を推進していく。

3 校務支援システムのクラウド化

本市の校務支援システムは、教育委員会内のサーバーで管理・運用されるオンプレミス型であるが、文部科学省が示している「教育 DX に係る KPI の方向性」において、令和 11 年度までに次世代の校務システムの導入および教職員の働き方改革にも資するロケーションフリーでの校務処理を行うこととされている。これを踏まえ、本市においてもクラウド化を含む、校務系および学習系ネットワークの統合やパブリッククラウドでの運用実現に向けた検討を進める必要がある。